

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論) (生命理工学先端研究特論)
(医歯理工学先端研究特論)

1. 講 師 三井記念病院 精神科 部長
中嶋 義文 先生
2. 演 題 職業生活における認知の影響
3. 日 時 平成27年11月 9日(月) 18時00分~20時00分
4. 場 所 1号館6階 歯学部演習室3、4
5. 内 容
国際生活機能分類(ICF,2001)による健康・疾病の理解の枠組みにおいて認知がどのような役割を果たしているかについて概観する。特に、認知症、認知障害から偏奇(bias)まで連續性をもつ認知機能がどのようにわれわれ医療者の生活機能、職業生活に影響しているのかについて理解することを目的とする。



「人は『押し付けられた』考えに縛られるのではなく、『自ら生み出した』考えに縛られる（中略）さらに、付け加えるならば、何より自らの認知バイアス、自らの言動や『姿勢』や『ポリシー』といったものが無意識に自らの感情や行動に影響を与えていることについて敏感であることが望まれる。これも精神の彼岸-ポイント・オブ・ノーリターンにまで追いつめられることを避けるコツのひとつである。」（講義レジュメより）

毎回、丁寧な言葉遣いで重要な概念をご教示いただいている中嶋先生に、今回は「認知」の問題に就いてお話し頂きました。まずは国際生活機能分類(ICF,2001)の解説から、「している」「できる」という生活機能から健康を考えることの大切さをお話し頂きました。そこから「認知」の定義と認知機能の連続性（認知症・微小認知障害・認知バイアス）について、さらに様々な精神障害の認知障害を「話が通じるかどうか」と言う切り口でわかりやすくお話し頂きました。最後に職業生活における認知バイアスとして、プロスペクト理論、ピークエンドの法則、認知的不協和という理論を概説して頂き、動機付け面接などの技法についても言及して頂きました。患者さん側を見るだけでなく医療者側も「自分に都合良く合理化する」己の認知バイアスに注意すべきであると身に沁みる講義でした。

懇親会では、中嶋先生のヤクルト・スワローズ愛やくだけた話題も含めて認知バイアス・認知的不協和などについての実体験を楽しく語り合いました。

